

ピンク系グラジオラス新品種 「常陸はなよめ」(出願中)

本県のグラジオラスは球根生産、切り花生産でそれぞれ全国1位、2位を占める重要な花き品目です。生産現場では消費の低迷や輸入球根の自由化に対応して産地の活性化を図るため、県オリジナル品種の育成が求められています。そこで農業総合センターでは新品種の開発に取り組み、「常陸はなよめ」(出願中)を育成しました。

● 育成経過 ●

平成11年に「富士の雪」を母親、「ハイスティール」を父親として交配を行いました。平成14年から5年をかけて、得られた135の実生個体から、花色、草姿などを指標に優良系統を選抜しました。その後、園芸研究所および現地における試験の結果、有望と認められたので平成21年度に品種登録を出願し、平成22年7月に出願公表されました。



「常陸はなよめ」の栽培状況



「常陸はなよめ」(左)と「トラベラ」(右)

● 特徴 ●

花色は上品なピンク色で、白の条斑とぼかしが入ります。季咲き栽培における到花日数は95日程度で花の大きさは11cm程度の大輪系です。

現在の主力品種である「トラベラ」と比べて病害虫の発生が少なく、作りやすい品種です。球根増殖も良好で、季咲き、抑制いずれの作型でも栽培が可能です。

表1 グラジオラス「常陸はなよめ」の特性 (平成20年)

品種・系統	草丈 (cm)	葉長 (cm)	花径 (cm)	花穂長 (cm)	花数 (個)	同時開花数 (個)	花色	開花期	到花日数	木子着生数 (個/株)
常陸はなよめ	139.5	102.4	11.3	58.1	19.0	5.5	ピンク	7/19	95	68.7
トラベラ	126.9	78.7	9.6	56.3	15.8	6.4	ピンク	7/13	89	37.1

注) 露地季咲き栽培。定植は4/15、中球を使用。